中国人学生の日本語作文調査

中野　洋（国立国語研究所）
張　建華（国立国語研究所）
林　翠芳　（京都教育大学）

１．自然な日本語表現

外国人の日本語は、日本人の日本語とどこか違う。もちろんすべてがそうだと言っているわけではない。しかし、大多数はそう感じる。では、どこが自然な日本語表現でないのかと問われると一般的な返答はできても具体的、体系的に答えることはできない。

そこで、その問題について調査を行ったので報告する。断っておくが、筆者らは自然な日本語が良いとか、そうでないのが悪いと考えるものではない。したがって、できる限り良し悪しの評価をさけ、より自然な日本語に近いかそうでないかの判断によって分析をすすめた。

顧偉坤は、日本人の中国語について同様の調査を行い、報告をしている。これらは、異なる言語の接触によって起こる問題の解決、外国人に対する言語教育の改善、それぞれの言語の特徴を明らかにすることなどに寄与するだろう。

２．方法

何が自然な日本語表現であるかの定義をしないで進める。人によって時代によって異なる部分が少なくないと思うからである。そこでこの調査では、まず日本語教育経験のある中国人と日本人の添削を求めた。それぞれ自分が日本語の神様になったつもりで、より自然な日本語にするように直してもらう。さらに、それを張が整理、分析し、最終的には中野の判断によった。

本報告の調査対象は、中野「中国流行歌の変化－日中流行歌の対照研究－」の講演についての感想文（８００字）２５編である。添削箇所は３２６９であり、これを分析した。

被調査者は、北京外国語大学と上海外国語大学の日本語系の学生１７９人である。

３．中国人の作文に見られる問題点

ここでは、どのような問題が指摘されたかを問題の起こる箇所別に分類して一覧表を示した。次章では中国語の影響による問題だと思われる箇所について例を示しながら少し詳しく述べる。

（１）語彙　複合語、慣用句、成句。
（２）品詞　活用形、副詞、名詞、動詞、形容詞、形容動詞、「コソアド」、形式名詞、助詞、複合辞、接続詞、接続助詞、補助動詞、不定詞、助数詞。
（３）構文　連体修飾、連用修飾、引用、形容詞句の並立、動詞句の並立、助詞の脱落、

主語の脱落、述語の脱落、その他の文成分の脱落、不必要語句の添加、語順。

（４）文法的意味　可能態、受身表現、使役表現、授受表現、自発、否定、伝聞、様態、自動詞・他動詞、テンス・アスペクト、接続表現、取立助詞、「のだ・わけだ・ことだ・ものだ」

（５）敬語表現

（６）文体　話しことばと書きことば、「です・ます体」と「だ体」「である体」

（７）表記　句読点、繰返し記号、濁点、長音記号、音訳、送り仮名、同音漢字、常用漢字、中国語の漢字

（８）表現　コロケーション、文脈、視点、表現慣習

４．中国語の影響による問題

（１）共起する語と語の関係

これは、中国語からの干渉による問題、日本語の知識の問題である。日本語研究においては、いままで語と語の共起関係については、まだ、研究が足りないと思われる。ある事柄、事態を表現する場合、どのような語と語が共起するか。これは言語によって異なるのは言うまでもない。第 2 言語学習において母語の表現慣習から抜けられず、母語表現を第 2 言語の表現にあてはめてしまうことが多い。このような例は、我々の調査、中国人による日本語作文には多く見られた。

1）*心を深く打たれました。(101)

心を強く打たれました。

これは、副詞と動詞の共起（修飾）の問題である。日本語では「心を打つ」という感情の程度を表すのに「強く」を用いるが、中国語では

深深地打動（我的）心。(心を深く打たれました）

のように、「深深」を用いる。これが日本語化されたと考えられる。

2)*四十代の人に「一番印象深かった歌は何か」という質問を聞いたら，(103)

四十代の人に「一番印象深かった歌は何か」という質問をしたら，

3)*日本の歌手もよく中国へ来て、コンサートを催している。（113）

日本の歌手もよく中国へ来て、コンサートをして／開いている。

4)*日本の流行歌にはあまり関心していませんでした。(108)

日本の流行歌にはあまり関心がありませんでした。

日本の流行歌にはあまり関心を持っていませんでした。

5)*頭に残っている。

印象に残っている。

(2)～(5)はいずれも間違った表現である。これは中国語と日本語の表現の相違によって生じた誤りだと考えられる。日本語では「質問をする」　「コンサートをする／開く」という表現に対し、中国語では、「問問題（質問を聞く）」「举办音乐会（コンサートを催す）」と言う。日本語では「関心がある」あるいは「関心を持つ」という表現に対し、中国語では、

「関心（関心する）」という表現を用いる。「印象が深い」ということの表現は、日本語は「印象に残っている」と言うのに対し、中国語は,「留在脳海里（頭に残っている）」と表現する。

6)*優秀な流行歌が作られ，(104)

すばらしい流行歌が作られ,

7)*この歌の淋しい雰囲気は私のその時の気持ちにふさわしかったです。(101)

この歌の淋しい雰囲気は私のその時の気持ちにぴったりでした。

この二例はどのような名詞がどのような形容詞、形容動詞と共起する（修飾を受ける）かの問題を示している。問題は、作者は「優秀的流行歌曲（優秀な流行歌）」「和心情相吻合（気持ちにぴったりだ）」という中国語の表現を日本語に訳す場合、日本語では、「すばらしい流行歌」「気持ちにぴったりだ」という表現を知らずに、中国語に引きずられて翻訳した結果、誤った表現になってしまったと考えられる。

8)*歌手同士の競争も強くなってきている。（110）

歌手同士の競争も激しくなってきている。

9)*日本の流行歌は、欧米からの影響が多い。(106)

日本の流行歌は、欧米からの影響が大きい。

10)*日本語のレベルが上達するにつれて、(101)

日本語のレベルが上がるにつれて

(8)(9)(10)の例は、「歌手之間的競争厉害」「来自欧美的影响多」「日語水平長進」など、中国語の話しことばでは現れ得る表現である。その直訳かもしれない。

11)*今中国では、長く人気を持てる歌手が少ない。(092)

今中国では、長く人気を保てる歌手が少ない。

(11)の誤りは、文脈の意味を考えずに、「長期受歓迎」という中国語の表現を、日本語に直訳したのが原因だと考えられる。

12)*流行音楽について何も知らなかったら，時代におちているような気がします。(090)

流行音楽について何も知らなかったら，時代に遅れているような気がします。

(12)は中日辞典の語義記述「落后」から「おちる」を選んだのが原因だと思われる。記述を詳しくする、あるいは用例を付けるなどの工夫によって改善されると思われる。

（２）語彙の意味的カテゴリーの相違

日中両語に共通して用いる語彙がある。このような語彙は両語にありながら、互いに同じ意味的カテゴリーを持っていると同時に、それぞれ異なる意味的カテゴリーもある。これについてすでに指摘されたことだが、今度の作文調査にも、同様の問題が多く見られた。

13)*私の流行歌を聞く歴史は確かその頃から始まったのです。(101)

私の流行歌を聞く習慣は確かその頃から始まったのです。

14)*十年にわたる文化大革命は徹底的に終わりを告げ，(103)

十年にわたる文化大革命は完全に終わりを告げ,

15)*中国の流行歌は多くの人に歓迎されています。(098)
　　中国の流行歌は多くの人に愛されています。
(13)の「歴史」は中国語では、
　中国具有五千年的歴史。（中国は５千年の歴史を持っています）
　他参加革命的歴史。（彼の革命にたずさわる歴史）
のように使われているが、日本語では、「世界の歴史」「日本の歴史」のように言うが、個人のことには、「歴史」という言葉は用いない。
(14)の「徹底的」は、中国語では形容詞の「徹底」にあたる。これが状語（連用修飾語）として働く場合には、動作、変化、状態を修飾することが出来る。例えば、
這場大革命徹底結束了。（この大革命は徹底的に終わった。）
這場大革命徹底清除了封建迷信。（この大革命は徹底的に封建的な迷信を取り除いた。）
しかし、日本語では、「徹底的」は、「～する」など動作しか修飾できない。
また、(15)の「歓迎する」という動詞は、中国語では、「受歓迎」という受け身の形を用いれば、
流行歌曲受歓迎。（流行歌が歓迎される）
他的作品受歓迎。（彼の作品が歓迎される）
大学生受歓迎。（大学生が歓迎される）
というように、「歓迎」の対象は、人間だけでなく、歌も作品もかまわない。しかし、日本語では、「歓迎する／される」の対象が人間のみに限られている。
16)*時には青少年のアイドルになることもあります。(098)
　　時には若者のアイドルになることもあります。
17)*世界の人民に歌われることでしょう。(104)
　　世界の人々に歌われることでしょう。
18)*青少年は心理にも生理にも成熟する時なので、(105)
　　青少年は精神的にも肉体的にも成熟する時なので、
19)*私の簡単な認識を述べることにする。(089)
　　私の簡単な意見を述べることにする。
また、「青少年」や「人民」「認識」のような語は、中国語では一般に広く用いられるものである。一方、日本語では、「青少年」は倫理、道徳など社会的な問題に、「人民」は政治などにかかわる場合に使われれる専門語的な語になっている。「生理」「心理」「認識」の語も同様に、中国語では一般用語として日常でも気軽に使われるのに対し、日本語では、専門分野にのみ使われる用語になっている。
以上の例は、中国語では意味の使用範囲が広く、日本語では意味の使用範囲が狭い場合で生じた不自然な表現である。
20)*人前で大きな音を出して、歌ったことはありません。(096)
　　人前で大きな声で、歌を歌ったことはありません。
21)*国と国の間柄までも歌詞から分かります。(000)

国と国の関係までも歌詞から分かります。

中国語では、生物も無生物も区別せずに「音」を用いるのに対し、日本語では、無生物の場合は「音」、生物の場合は「声」と使い分けている。また、日本語では、組織と組織の関係なのか、人間と人間の関係なのかによって、「関係」と「間柄」の二つの言葉で表現するのに対し、中国語では、組織にせよ、人間にせよ、「関係」という言葉を用いてカバーする。つまり、中国語では、ある意味のカテゴリーについて、一つの語を用いてカーバできるのに対して、日本語では、その意味のカテゴリーが細分化され、二つ以上の語を使い分けなければなら場合で生じた間違いである。

（３）指示詞の相違

日本語の指示詞「コソアド」体系は中国語の指示詞の体系と異なるので、作文には日本語の指示詞の誤った例が多く見られた。

22)*歌は私の高校時代にも光と希望をもたらしてくれました。私の第二の誕生が始まったのはまさにあのころだったのです。(096)
歌は私の高校時代にも光と希望をもたらしてくれました。私の第二の誕生が始まったのはまさにそのころだったのです。

23)*中国語はそんなに豊富であるのに、(091)
中国語はこんなに豊富であるのに、

24)*あの歌を歌った歌手も有名になりました。(111)
この歌を歌った歌手も有名なりました。

25)*そういう香港や台湾のポップは(093)
こうした香港や台湾のポップは

以上に挙げてある例を見ると、「コ」を「ソ」「ア」に、「ソ」を「ア」に間違える傾向がある。しかし、その逆の例は見られない。例を増やしてもこの傾向が認められるのか、もしそうだとしたら、これは中国語の指示詞とどのようなかかわりがあるのか、興味深い問題である。これからさらに調査する必要があると思われる。

（４）主語の省略しすぎ

主語の省略しすぎも、目立つ問題であった。 つまり、主語が省略されるべきではないところで、省略されてしまうという例が多かったのである。

26)*中学校入学後、心の中で、芽生え始めた。(100)
中学校入学後、それが心の中で、芽生え始めた。

27)*あまりにも多いからであろう。(99)
歌の数があまりにも多いからであろう。

28)*雅楽と庶民音楽に分かれている。(089)
伝統音楽は雅楽と庶民音楽に分かれている。

29)*今の歌は新しい形式が多くなっています。例えば、外国や民族音楽のメロディーを

引用しています。(112)

今の歌は新しい形式が多くなっています。例えば、多くの歌が外国や民族音楽のメロディーを引用しています。

主語は、日本語と比べて中国語の方が頻繁に用いられると言われている。そうだとすれば、このような誤りが生れるはずはない。なぜ、このように主語の省略しすぎの例がたくさん生じたのだろうか。逆に、日本人が書いた作文に主語を多用する傾向が見られると中国語教育の現場からも指摘される。これは研究すべき面白い問題である。

中国人学習者に見られる主語の省略しすぎは、おそらく日本語教育現場で主語無用を強調しすぎたことから起こった現象だろう。しかし、この問題は日本語学の分野では十分に研究が行われていないことも示している。確かに、日本語は、英語や中国語に比べて主語の出現頻度が低い。いったいどのような条件で省略でき、どのような条件では省略できないのかということについて、さらに研究すべきである。

（５）表現についての習慣の相違

作文の中には、次のような日中両語の表現についての習慣の相違によって生じた不自然な例もある。

30)*この歌は私の心を強く打ちました。(101)

この歌に私は心を強く打たれました。

31)*最近の流行歌は私を失望させる。(091)

最近の流行歌には失望させられている。

日本語では、この二文とも、主語は歌より人間の方が自然である。これを中国語に訳す場合、両方とも成り立つ。原文は

這首歌，深深地感動了我。

最近的流行歌曲叫我失望。

というような訳文になる。直された文は、

我被這首歌，深深地感動了。

我不得不為最近的流行歌曲而失望。

のように訳すことができる。しかし、原文の方は、よりシンプルな表現で、添削された方は、文学的な表現になると思われる。

上に挙げている日本人の添削に対して、中国人の添削は、

この歌は私の心を強く打ちました。

最近の流行歌は私を失望させる。

である。このような中国人と日本人の添削の違いからも、日中両語の表現習慣の相違が見られる。

また、次のように一つの複文で視点が一致しないという問題もある。

32)*最初のころはただ「小田和正」しか知らなかったが、日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を紹介してくれた。(113)

最初のころはただ「小田和正」しか知らなかったが、日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を知ることができた。

これは「日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を知ることができた」というふうに直せば、さらにより日本語らしい表現になる。

原文は、「日本の友達との文通を通じて」という従属節において、視点は、一人称の「私」（文脈から判断できる）にあるが、その後に来る「いろいろな歌手を紹介してくれた」という主節においては、「私」から第三者に移った。つまり、一つの複文の中に視点が「私」と第三者の二か所にあるのである。しかも、「を通じて」が独立性の弱い従属節であり、実質的に後置詞相当の語句となっているため、なおさら一つの文の中に複数の視点が混在しているという印象を与えやすい。

見方を変えれば、この文の意味は、ある第三者(の中国人)がその日本の友達との文通によって歌手の情報を得、私に紹介したとも解釈できる。これでは、作者の表わしたい意味と違うことになってしまう。従って、この文は、「日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を知ることができた。」（あるいは「日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を紹介してもらうことができた」）というように、従属節でも主節でも同じ主語に視点を保つようにすれば、より自然な日本語の表現になる。

それに対して、中国語では、両方の文とも成り立つ。不自然であった日本語の文も、それほどおかしくないのである。

原文：「通過和日本朋友通信，他告訴了我許多歌手。」

添削：「通過和日本朋友通信，知道了許多歌手」。

これはおそらく中国語は日本語より、主語が簡単に付けられるという構文構造になっており、一つの話の流れの中で視点が変わっても、添加された主語によって、話がわかるということであろう。

それに対して、日本語は、視点がくるくると変わる構文はわかりにくいので、主語を添加してわからせるよりは、同じで表現する方が、よいということになるのだろう。

このような問題については、日中両語での文中の視点の置き方にどのような相違があるかを、さらに詳しく調べる必要があると思われる。

（6）その他

以上の他に、頻度は少ないが、次のような自他動詞の混用の例も見られる。これは、日本語では自動詞か他動詞のどちらか一方で使われるものが、中国語では自他動詞の両方ともに使わる動詞で誤りが生じやすいようである。

33)*どのように伝統音楽を発展していくか，　(089)

どのように伝統音楽を発展させていくか，

どのように伝統音楽が発展していくか，

次の例は、中国語の自動詞「成長」を日本語の他動詞「育てる」に間違えたものと考えられる。

34)*外国人は自分の育てた環境の下で湧いて来る気持ちは(090)

外国人は自分が育った環境の下で湧いて来る気持ちは

なお、中国語では、はじめて話題に出る人間や事物に数量詞をつけるのが一般的である。つまり、この場合の数量詞は英語の不定冠詞のような役割をしている。次のような不自然な表現は、このような中国語の影響によるものではないかと考えられる。

35)*当時は、一人の有名な歌手が何年も活躍できるような時代であった。(092)

当時は、有名な歌手が何年も活躍できるような時代であった。

36)*一曲の歌にとっては歌詞もメロディーも両方とも重要なものである。(094)

歌にとっては歌詞もメロディーも両方とも重要なものである。

５．まとめと今後の課題

この報告では問題を提起することを目的とした。今後、この方法で全サンプルを調査、分析し、できれば添削者による違いの分析結果を加えて報告したい。また全データを項目別に分類し、解説した資料集を作る予定である。

同時に行っている日本人の中国語の調査、日英両語についての分析を通して、問題の一般化も試みたい。

謝辞

調査については、北京外国語大学日本系朱春躍教授、上海外国語大学日本系皮細庚教授他、お世話になった諸先生、被調査者の学生諸君の協力に対して、感謝の意を表する。また、添削は羅玲玲、中溝朋子、平弥悠紀三氏の協力を得た。

参考文献

藤沢伸介(1976)「日本人学生の書いた日本語作文における誤り」（1975 年度文部省科学研究費「日本語文法の機能的分析と日本語教育への応用」（代表者：井上和子）報告書）

寺村秀夫(1990) 『外国人学習者の日本語誤用例集』（1985 年度文部省科学研究費「日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究」（代表者：井上和子）報告書）

注記　＊印は作文に用いられた文、無印は添削例。３桁の数字はサンプル番号用例は問題になるところだけ原文のまま引用し、それ以外は添削を加えたものを用いる。